

保育効果に関する研究(2)

保育所の新入所児と長期保育経験児との比較

研究第8部 牛島 義友
星 美智子
戸越愛育園 住 吉 玲子

I 目 的

昨年度は、保育所の保育効果をみるため、保育所の保育をうけて就学する子と、その同じ小学校へ、保育経験なく家庭から直接就学する子との比較をおこなった。

今年度は、保育所に新に入所した子どもと、1年以上保育をうけている子どもとを対応させて比較し、保育所の保育効果のみようとするものである。

II 方 法

(1) 手続き

保育所に入所したばかりの子どもをできるだけ早い機会にとらえ、その子に対応する長期の保育経験ある子を対照児として選ぶ。両者にそれぞれ個別検査をし、一方、保育担当者に子どもの行動や態度などを質問紙に記入してもらう。

幼児総合精神検査、知能判定検査、乳幼児精神発達検査などから、3~4歳児該当の検査をえらび、数、言語、絵の叙述、構成、手先きの機能、運動機能などをみることにした。

(2) 対象児

東京都内の保育園の新入所の3歳児、4歳児を対象とし、同保育園内でその対照児を選定する。その選定基準は、つぎのaからeの5項で、aから順に照合するものを対照児として選ぶ。つまり、a条件のものが多ければb条件、さらにc d eと限定していく。

第1表

保育所	3歳児		4歳児		計	
	実験群	対照群	実験群	対照群	実験群	対照群
烏山保育園	3	3	0	0	3	3
高円寺南保育園	7	7	1	1	8	8
江東橋保育園	10	10	20	20	30	30
志田町保育園	7	7	0	0	7	7
世田谷保育園	13	13	2	2	15	15
戸越愛育園	1	1	4	4	5	5
白羊保育園	4	4	8	8	12	12
みどりの家保育園	7	7	7	7	14	14
八雲保育園	0	0	6	6	6	6
計	52	52	48	48	100	100
	104		96		200	

a 保育期間：1年以上保育をうけているもの、すなわち、1947年4月以前に入所したものである。

b 年齢：新入所児と生年月日が3カ月以内の差であること。

c 性別：新入所児と同性的なもの。

d 両親の有無：新入所児と両親の有無の状態が同じであること。

e 家庭状況：親の職業や経済状況、同胞数などが似かよっていること。

第1表は対象児の一覧表である。

(3) 検査項目

他に保育所の生活によって、ちがいが多くみられると思う集団生活に関連したものをことばの定義として設問に加えた。

A 数。

1. 4個を数えさせる。
2. 13個を数えさせる。
3. 指の数。左手、右手、両手の数をかぞえずにいわせる。

B 言語。

1. 色の名：赤、黄、青、緑の色の名をいわせる。
2. 用途定義：机、鉛筆、時計、菓子、人形、それぞれの用途定義をさせる。
3. 構音：発音が正しくいえるかどうか、「ズボン、ゾウ、サル、ハンカチ、星、風船、ヒマワリ、自動車、キリン、魚」の絵をみせて発音させる。
4. 語彙：語彙の使用と理解に分けて検査する。検査語は、「怒る、女の子、かめ、長い、ひざ、少し、海、窓、薄い、なす」である。

(当研究所紀要第9集参照)

C 叙述。

CATのねらいをもつ刺戟図版「食事」「お店」「赤ちゃん」の3枚を用い、子どもに絵の叙述をさせる(前掲参照)。一方、叙述されたものから投影法により反応分析をする。

D 定義、集団ルール。

1. ジャンケン：初歩的なあそびのルールとしてジャンケンをとりあげ、絵をみて名付けさせたり、どちらが勝ちかをいわせる。
2. 皆：「皆さん」「みんな」といったことばを理解しているかどうか、絵を示して「皆さんの中にいるパンダはどれか」をたずねる。
3. 集合：うさぎが集まっている絵と、りすが散りぢりになっている絵をみせて「集まる」という状態を知っているか、そのことばを使用しているかを検査する。
4. 並ぶ、順序：3問と同じように、並ぶこと、順番などについて検査する。刺戟図は手洗い場でねずみ

が一列に並んでいるのと、一方、ねこが、手洗い場でもみあっている絵である。

E 構成。

1. 積木：3個の積木で検査者が手本を示し、一度こわして被検児に積ませる。2問。
2. 円：手本をみせてえんぴつで円を描かせる。
3. 四角：2問と同じように正方形の図をみせて描かせる。

F 手先きの働らき。

日常生活技術のひとつとして、紙の形を切りぬかせる。

G 運動模倣：被検者と向かい合せて検査者が、第9表の1)～9)図のような手の動作を連続しておこなう。子どもにまねをさせ、正しく動作できるか、動作がなめらかかぎこちないかをみる。

H 検査場面(検査時の態度)：12項目にかけて観察記録する。

検査には、保育所の保育室あるいは事務室を用い、子どもひとりづつに個別検査を施行する。検査所要時間はひとり約15分から20分である。検査者は当研究所のもの5名である。

(4) 質問紙

質問項目は、牛島、津守らの保育所の子どもたちの調査項目と Kazuo Nihiraらによる適応行動尺度を参考として作製した。質問Ⅰの(1)～(7)は保育所で観察できる日常生活習慣に関するもの、(8)～(14)は、社会的行動、質問Ⅱは子どもの能力や性格に関する項目、質問Ⅲは子どもの身なりや清潔についての項目、質問Ⅳは、家庭の生活についての項目である。質問Ⅰ～Ⅲは保育者の観察による記入、質問Ⅳは保育者が母親にたずねて記入する。(別紙、質問紙参照)

検査を施行した実験児、対照児、それぞれ名前を記入した質問紙を、担当保母に依頼し、2週間後に保育所ごとに郵送してもらう。回収率は100%であった。

(5) 日時

1973年3月、検査問題および調査用紙の作製にあたり、検査および調査の実施は、1973年4月から6月にかけておこなった。

III 結 果

《対象児》

生活年齢は、実験児と対応させて生活年齢3カ月以内の差で対照児をえらんだ。その結果は、3歳1月から5歳3月までで3カ月ごとの分布は第2表のようになっている。両群の平均と標準偏差はつぎのようになり、t検

定では有意の差がみられない。つまり、年齢条件に左右されずに結果を比較することができるわけである。両群の性別は、保育期間、生活年齢について第3位の条件であったので、多少のズレがみられた。対照群は実験群より3歳児で4名、4歳児で2名男児が多かった。

第2表

生活年齢	実験群	対照群	計
3:1 ~ 3:3	8	8	16
3:4 ~ 3:6	9	7	16
3:7 ~ 3:9	14	11	25
3:10 ~ 4:0	17	20	37
4:1 ~ 4:3	14	11	25
4:4 ~ 4:6	13	10	23
4:7 ~ 4:9	16	14	30
4:10 ~ 5:0	8	14	22
5:1 ~ 5:3	1	5	6
計	100	100	200
平均	49.0 (4歳1月)	50.1 (4歳2月)	
標準偏差	6.325	6.855	

t=1.172 0.3 > p > 0.2

第3表

	3歳児		4歳児		計	
	実験群	対照群	実験群	対照群	実験群	対照群
男	28	32	27	29	55	61
女	24	20	21	19	45	39
計	52	52	48	48	100	100

<検査結果>

それぞれの個々の子どもについて、各検査の合格、不合格の採点、あるいは得点の算出をする。つぎに各検査ごとに、新入所児群と保育所経験1年以上である対照児群の合格率による比較、または平均と標準偏差による差の検討をする。

A 数

1問~3問のどの問題も、新入所児より保育所経験のある子の方がすぐれている。χ²検定により、「13個をかぞえる(2回のうち1回できて合格)」ことは、とくに保育経験群がすぐれていた(第4表)。

B 言語

1. 色の名前は、保育所経験のある子と新しく保育所に入った子の差が非常にはっきりしており、赤、青、緑の各色の合格者、4色全部合格者ともに0.01以下の危険率になっている。

第4表

※ = P < 0.05 ※※ = P < 0.01

検査項目	新入所児 N=100	対照児 N=100	χ ²
数 1. 4個かぞえる	57%	67%	※
2. 13個かぞえる½	25	36	
3. 指の数をいう% (右手)	5	7	
(左手)	14	17	
(両手)	13	17	
	5	7	
色の名前 4色いえる	25	49	※※
(赤)	84	98	※※
(黄)	75	87	※
(青)	59	79	※※
(緑)	33	53	※※
用途定義 %~	29	34	※※
机	20	26	※
鉛筆	44	43	
時計	8	9	
菓子	46	53	
人形	36	46	

第5表

構音	新入所児 N=100	対照児 N=100
12 / 12 合格	52%	56%
1 <u>ズ</u> ボン	78	80
2 <u>ゾ</u> ウ	73	71
3 <u>サル</u>	99	98
4 <u>ハン</u> カチ	98	100
5 <u>ホ</u> ン	92	96
6 <u>フ</u> ウセン	98	99
7 <u>ヒ</u> マワリ	90	95
8 <u>ジ</u> ドウシャ	98	98
9 <u>ジ</u> ドウシヤ	88	84
10 <u>キ</u> リン	98	100
11 <u>サ</u> カナ	85	82
12 <u>サ</u> カナ	99	100

2. 用途定義では、5つのことばそれぞれについての合格率の比較とさらに5問中3問以上できたものについて比較をした。机、鉛筆、時計、菓子、人形のうち、机の用途定義に保育経験ある・なしの差がはっきりでている。これは、家庭にいる子と、毎日の生活経験のなかに「机」の入っている保育所児とのちがいであろう。3問以上合格したもので、危険率0.01以下で差があるといえ、用途定義全般に保育経験児の方がよくできていると

いえる。

3. 構音検査では、全体として保育経験児の方がすぐれてはいるが、12小問全合格の率、各小問とも χ^2 検定結果では危険率0.05以上であり差があるとはいえない。

4. 語彙検査では、語彙の使用と理解に分けて検査をする。つまり、ひとつのことばについて、その語を使えるかどうか、使わないが理解しているかどうか、二重のA・Bの質問によってたしかめる。例えば「薄い」では薄い紙とボール紙をみせ、Aの質問「厚い方の紙はどれですか? ではこちらは?」とたずねる。「ウスイ」と答えれば語彙使用A点(2点)を与える。言えない子には「薄い方の紙はどちらですか?」とBの質問を追加して、できれば語彙理解B点(1点)を与える。第6表は語彙使用と語彙理解(語彙使用可能なものは当然理解しているので理解も合格とする)の両群の比較である。両群とも「薄い」はもっとも困難で、理解するものが70%に満たず、使用することのできるものは、10%に満たない合格率であった。「ひざ」「窓」「なす」も3~4歳児の語彙使用は40%前後の合格率である。両群の比較を

第6表

語彙検査	新入所児 N=100	対照児 N=100	χ^2
1) 怒る A	88 %	93 %	
B	98	100	
2) 女の子 A	90	98	※
B	96	98	
3) かめ A	91	98	※
B	99	99	
4) 長い A	47	47	
B	87	97	※
5) ひざ A	29	37	※
B	71	74	
6) 少し A	51	59	
B	89	96	
7) 海 A	56	65	※
B	85	89	
8) 窓 A	40	43	
B	82	79	
9) 薄い A	8	3	
B	66	68	
10) なす A	45	42	
B	79	71	

すると、「女の子」「かめ」「ひざ」「海」の語彙使用「長い」の語彙理解に差がみられ、いずれも新入所児の方が劣っている。A点とB点の得点の平均をみると、対照児の方がややすぐれているがt検定で有意の差とはいえない。

(語彙)

	新入所児	対照児
M	14.00	14.32
S D	3.54	2.83

$t = 0.7018 \quad 0.50 > P > 0.40$

C 叙述

「食事」「お店」「赤ちゃん」のそれぞれの刺戟版について、「これは何をしているところでしょう。思ったようにお話しして下さい」と教示する。絵の中のものを列挙したり、不完全な叙述には1点、主語をいれた叙述、あるいは不完全な叙述を二つ以上の答には2点、まとまりのある完全な叙述には3点を与える。3枚の絵全体の得点は0点から最高9点になる。両群の得点はつぎのようになり、平均的で両群を比較すると新入所児3.38、対照児3.54で、いずれも3点台、わずかに保育経験のあるものの方が良いが、有意差とまではいっていない。

この叙述の検査では、表現されたものから投影法的分析をおこなうはずであった。しかし、結果をみると、子どもたちの得点に明らかにされているように、刺戟版3枚の合計点の平均が3点であり、1枚の刺戟版の答がほとんど、1点であることを示している。つまり、絵をみて「サル」「ゴハンタベル」「オモチャ買ッテル」「アカチャンイル」などの反応にとどまっている。3~4歳児の絵の叙述から、分析をこころみることは不可能であった。

(叙述)

	新入所児	対照児
M	3.38	3.54
S D	1.49	1.38

$t = 0.7839 \quad 0.50 > P > 0.40$

D 定義, 集団ルール

1) ジャンケンの石(グー), はさみ(チョキ), 紙(パー), を指の形の絵をみて言えるものは、第7表にみるように、新入所児と対照児とに明らかな差がみられた。2) ジャンケンの勝ち負けでは、3組とも保育経験児の方が良くできていたが、差の明らかなのは、パー対

第7表

集団ルール	新入所児 N=100	対照児 N=100	χ^2
1) ジャンケン名称 $\frac{1}{2}$	75%	88%	※※
グー, 石	87	95	※
チョキ, はさみ	76	90	※※
パー, 紙	85	94	※
2) ジャンケン勝ち負け			
グーとチョキ	63	69	
パーとグー	72	79	
パーとチョキ	62	76	※
3) 皆	55	68	※
4) 集 合			
A	82	92	※
B	0	1	
5) 順番・並ぶ			
A	91	97	
B	11	26	※※

チョキの組合せであった。さらに、1)と2)の得点(0~6点)で検討してみると、つぎのように、有意差をもって対照児の方がすぐれている結果をえた。

(ジャンケン)

	新入所児	対 照 児
M	3.21	3.68
S D	1.22	1.10

$t=2.8468$ $P<0.01$

3)「皆」(みなさん, みんな), 4)「集合」(あつまる, おあつまり)を指で示すこと(A)ができたもの、5)「順番, 並ぶ」をことばでいえたもの(B)は、第7表に示すように、保育経験児が新入所児より多く明らかならがいみられた。つぎに3)から5)の集団行動に関する間の得点を見る。なお、4), 5)は、そのことばを使えるものB(2点), その状態を知っているものA, 1点として得点を算出する。各個人の得点の両群の平均、標準偏差はつぎのようになり、1%以下の危険率で有意の差となっている。

(集団行動)

	新入所児	対 照 児
M	3.47	4.06
S D	1.02	0.97

$t=4.1726$ $P<0.01$

E 構成

積木の模倣, 円, 正方形の模倣, いずれも、保育経験

第8表

検 査 項 目	新入所児 N=100	対照児 N=100	χ^2
積木 (1)十字形	41	46	
(2)階段形	34	47	※
円	92	100	※※
正 方 形	35	48	※

のある群が新入所児群よりすぐれている(第8表)。構成問題の合計点でも、つぎのように有意差がみられる。

(構成)

	新入所児	対 照 児
M	2.90	3.39
S D	0.98	0.90

$t=3.6650$ $P<0.01$

F 手先きの働らき

紙に印刷された形をはさみで切りぬかせ、直線と曲線に分けて採点する。0点から最高8点の評価をし、得点について両群の比較をするとつぎのようになる。新入所児の平均得点は対照児より1点近く劣っており、検査の結果、有意の差となっている。

(紙切り)得点

	新入所児	対 照 児
M	4.48	5.31
S D	2.00	1.76

$t=3.1028$ $P>0.01$

つぎに、紙切りに要した時間について両群の差をみたが、対照児の方が幾分時間が早く、標準偏差も少ないが有意の差はみられない。

(紙切り)所要時間

	新入所児	対 照 児
M	1.98	1.93
S D	1.30	1.12

$t=0.4274$ $0.70>P>0.60$

G 運動模倣

1)~9)の連続動作について、一動作ごとに合格率で両群を比較したのが第9表である。5)から6)に移る動作がもっともむずかしい結果がでており、両群とも一番合格

第9表 運動模倣

体 操	新入所児	対照児	χ^2
1)	93	99	※
2)	77	82	
3)	92	96	
4)	75	79	
5)	93	95	
6)	59	70	
7)	91	89	
8)	66	75	
9)	65	73	

率が低い。そして、1)~9)のうち、 χ^2 検定ではこの動作だけが5%以下の危険率でちがいが明らかであるといえる。さらに、得点の平均によって両群の差の検定をおこなったが有意差はみられない。

(運動模倣)

	新入所児	対照児
M	7.80	8.05
S D	1.77	1.72

$t = 1.4148 \quad 0.20 > P > 0.10$

H 検査場面 (検査態度)

検査時の行動(1)~(12)について、それぞれ3段階評価をする。その結果は、第10表に示すものである。新入所児と対照児とのちがいは、「よく考えて答える」「緊張しない」「自信のある態度」である。対照児の方が、緊張せず、よく考えて答えている。自信のある態度は逆に新

第10表

検査態度	新入所児 N=100			対照児 N=100			χ^2
	A	B	C	A	B	C	
(1)ひとりで入室	96	3	1	96	4	0	
(2)すぐ答える	77	21	2	76	21	3	
(3)よく考えて答える	5	81	14	16	81	3	※※
(4)表現力	6	75	19	8	77	15	
(5)はっきり言える	13	52	35	19	52	29	
(6)わからないといえる	8	45	47	11	31	58	
(7)言語明瞭	6	58	36	8	59	33	
(8)おちついてる	8	54	38	14	52	34	
(9)興味をもってする	15	79	6	22	74	4	
(10)緊張しない	21	43	36	34	34	32	※
(11)自信のある態度	49	44	7	3	88	9	※※
(12)動作が早い	16	81	3	11	82	7	

A = よくできる B = ふつう C = できない

入所児の方に多くみられる。

つぎに、Aをプラス1点、Bを0点、Cをマイナス1点として(1)~(12)の得点を出して比較してみる。新入所児より対照児の方が平均点高く、偏差も少ないが、t検定によると有意の差とはいえない。

(検査場面)

	新入所児	対照児
M	+0.20	+0.96
S D	3.10	2.96

$t = 1.2412 \quad 0.30 > P > 0.20$

第11表

観察項目	新入所児 N=100			対照児 N=100			χ^2
	A	B	C	A	B	C	
(1)手を洗う	45	40	15	52	40	8	
(2)食べ方	29	51	20	42	43	15	
(3)便所の使い方	34	63	3	41	57	2	
(4)着脱衣	62	20	18	78	14	8	※
(5)衣類の整理	40	34	26	67	27	6	※※
(6)持物の整理	48	39	13	51	40	9	※※
(7)後片づけ	22	60	18	26	56	18	
(8)あいさつ	42	47	11	51	47	2	※
(9)順番をまつ	23	65	12	28	58	14	
(10)手伝い	25	67	8	36	60	4	※※
(11)集合のとき	38	43	19	52	38	10	
(12)列をつくる時	14	79	7	29	60	11	
(13)伝言・約束	24	55	21	32	58	10	
(14)遊具の使い方	27	65	8	26	69	5	

A = よくできる B = ふつう C = できない

第12表

観察項目	新入所児 N=100			対照児 N=100			χ^2
	A	B	C	A	B	C	
(1)動作や行動	15	69	16	16	62	22	
(2)周囲への関心	22	66	12	22	73	5	
(3)姿勢・外見	35	49	16	35	54	11	
(4)リズムあそび	12	68	20	25	65	10	※※
(5)話し方	38	47	15	50	41	9	
(6)聞き方	26	58	16	35	54	11	
(7)皆の前で話す	31	30	36	47	29	24	※
(8)情緒安定	10	73	17	12	74	14	
(9)集団への参加	37	37	26	41	53	6	※※
(10)グループあそび	32	52	16	67	27	6	※※

《質問紙結果》

I 保育所で子どもたちがどの程度のことのできているかを(1)~(4)について、保育者が三段階評価をした結果が第11表である。よくできるA評価を得たものと、(1)~(4)のいずれも新入所児は劣っている。「着脱衣」「あいさつ」は危険率5%以下、「衣類の整理」「持物の整理」「手伝い」は危険率1%以下で差が明らかであるといえる。

II 保育所でみられる子どもの行動や態度、性格を保育者に評価してもらう。その結果は、第12表に示したものである。ここでみると、「リズムあそび」「皆の前で話すこと」「集団への参加」「グループあそび」に、明らかな差がみられ、保育所経験児の保育効果がうかがわれる。

第13表

観 察 項 目	新入所児 N=100			対照児 N=100		
	A	B	C	A	B	C
衣類1 上着 (1)汚れ方	31	65	4	34	62	4
(2)手入れ	19	80	1	15	84	1
2 下着 (1)汚れ	26	70	4	17	81	2
(2)手入れ	21	76	3	14	83	3
3 靴下	32	64	4	25	72	3
4 靴	11	88	1	8	92	0
肌の清潔 1 顔	17	73	10	17	79	4
2 頭髪	18	79	3	12	88	0
3 爪	13	83	4	8	90	2
4 皮膚	16	79	5	15	84	1

(A=きれい B=ふつう C=汚れている)

III この項目では、子どもの身の清潔さから、親の子どもへの配慮をみる。保育者に三段階評価をしてもらい、その結果を集計したものが第13表である。新入所児も対照児も似た傾向を示しており、 χ^2 検定で各小項目とも、ちがいのない結果がだされた(第13表)。

IV 保育者が母親を通してえた情報から、子どもの(1)こづかい、(2)睡眠、(3)事故について質問紙に記入する。

(1)こづかいについては、与える金額、使い途、使い途

第14表 こづかい(額) () %

	与えない	10~20円	30~50円	60~100円	110~200円	記入者計
新入所児	28 (33.3)	26 (31.0)	24 (28.6)	5 (5.9)	1 (1.2)	84 (100.0)
対照児	41 (54.0)	22 (29.0)	13 (17.0)	0 (0)	0 (0)	76 (100.0)

$\chi^2=12.202$ $0.02 > P > 0.01$

の管理の3点から調査した。まず、こづかいをどのぐらい与えているかをみると、第14表に示されるように新入所児と対照児のあいだに大きなちがいがみられる。1年以上保育所生活をしている子が、「こづかいを与えていない」54%に対して新しく入所した子は33%である。金額でみても新入所児は毎日もらう額が多く、3~4歳児で1日60円以上つかう子が6人おり、対照児では60円以上の子はいない。つぎにこづかいを何に使うかをみると、買いぐいが多く、3~4歳児で30%前後のものが買い喰いをしていることになる。新入所の子がとくに多い。

(こづかいの使い途)

	新入所児	対照児	χ^2
買い喰い	35	27	※
おもちゃ	9	3	※
食 事	0	1	
その他	3	2	

母親が子どものこづかいの使い途を知っているかどうかを調べると、半数以上はよく知っていると答え、ほとんどのものが大体知っていると答えている。両群で比較をしてみたがその差はみられない(第15表)。

第15表 (こづかいの使い途を知っている) () %

新入所児 N=48			対照児 N=34		
A	B	C	A	B	C
33 (68.8)	15 (31.2)	0 (0)	18 (53.0)	15 (44.1)	1 (2.9)

$\chi^2=3.112$ $0.30 > P > 0.20$

(A=知っている B=大体わかる C=知らない)

(2)睡眠時間

A, 子どもの起床時間・就床時間をしらべた。起床時間の平均は、新入所児はほぼ7時30分、対照児はほぼ7時40分になる。就床時間は新入所児9時30分、対照児9

第16表 (睡眠時間への配慮) () %

新入所児 N=84			対照児 N=88		
A	B	C	A	B	C
70 (83.3)	13 (15.5)	1 (1.2)	78 (88.7)	10 (11.3)	0 (0)

$\chi^2=6.685$ $P < 0.05$

(A=気をつける B=ときどき C=気をつけていない)

時45分である。新入所児の方が睡眠をやや多くとっているが、起床時間、就床時間ともに差があるとはいえない検定結果である。

(起床時間)

	新入所児	対照児
M	7:55	7:61
SD	0.75	0.63

$t = 0.6795 \quad 0.50 > P > 0.40$

(就床時間)

	新入所児	対照児
M	9:50	9:67
SD	0.81	0.71

$t = 1.5098 \quad 0.20 > P > 0.10$

B、睡眠時間に対する配慮：第16表のように、新入所児より対照児の方が配慮している結果になっている。しかし、さきの睡眠時間では新入所児より就床時間はおそく、配慮していてもその成果はみられないといえる。

(3)昨年1年間の子どもの事故をみると、新入所児の方がやや多いが、推計的にみて差があるとはいえない、ちがいである。なお、一昨年度の事故も調査したが同じような結果となっている。しかし、一昨年度は対照児も保育所に入所していない子も多く含まれるため、表示することは省略した。

(昨年1年間の事故)

	新入所児 N=100	対照児 N=100
交通事故	2	2
その他の事故	6	3
計	8	5

$\chi^2 = 0.324 \quad 0.70 > P > 0.50$

IV 考 察

(1)家庭で保育に欠けていた子と保育所生活を1年以上経験している子とを比較したが、知的発達においては、全般に保育所経験児の方がすぐれていた。また、標準からのずれもすべての項目にわたって保育所経験児の方が少なく、よりまとまった結果をしめしている。各検査についてみると、両群にあまり差がみられなかったものは構音検査と絵の叙述である。つまり、発音の正しさ、絵の説明などは、保育効果がみられない。「語彙検査」では、語彙を知っていることでは、両群にさして差がないが、そのことばの使用の面からみると明らかな差がみられ保育所児の方がすぐれている。数、色の名、用途定義、積木を模倣したり円や四角を描く構成的検査では保育効果が顕著である。

(2)「ジャンケン」の理解、「皆さん」「集合」「順番」の理解は、はっきりちがいがみられ、保育効果、友だちあそびの効果があらわれている。「紙切り」は、所要時間の差はないが上手に切ることには保育効果があらわれていた。「運動模倣」は両群にさほどの差がみられず、全体に保育所経験児の方がやや上廻る成績であったが、比較的困難な個所で保育経験のある子の優位が明らかであった。

(3)子どもの検査をうける態度について、両群を比較検討してみると、保育所経験のある子どもは、「よく考えて答え」「緊張している子」が少ない。そして新入所児

の方に「自信ある態度」のものが多く、保育経験児は、「普通な態度」が圧倒的である。これは、昨年度の研究でも同様の結果をえている。昨年度は、就学前に保育をうけた子と保育をうけない子の比較であったが、やはり、保育をうけない群に自信ある態度と自信のない態度の両端が多く、保育をうけた群の方が「普通な態度」で、「よく考えて」検査に応じていた。これは、検査場面の認識、与えられた課題への意識ができてきていることであり、保育効果のあらわれといえよう。

(4)保育者が受け持ちのひとりひとりの子どもの態度や行動を評価した結果から、保育所へ入所したばかりの子と対照児とを比較してみる。保育効果の明らかであったものは、洋服の脱ぎ着、持物の整理、あいさつや皆の前で話すこと、集団参加と保育所での手伝い、リズムあそび、グループあそびであった。身なりの清潔などは両群に差がみられない。保育者が母親に聞いて記入する項目では、毎日のこづかいに差が大きく、こづかいを与えているものは、新入所児67%、対照児46%である。与えている額も対照児は1日10~20円が多いが新入所児は1日60円以上のものが数名いる。就寝、起床時間は両群に差がないが、母が子どもの睡眠時間を配慮しているのは対照群であり、保育所の指導がうかがえる。就寝時間は、3~4歳児にしては両群とも遅く9時30分前後が平均になっている。事故はわずかだが新入所児に多かった。

以上が本研究の結果の概略であるが、保育に欠ける子と保育所で1年以上保育をうけている子とでは、能力や行動、日常生活にちがいがみられ、保育所の保育効果は著しいものと評価された。5、6歳の年長児を対象とすれば、さらに顕著な差が現われるものと推定できる。しかし、東京都の現状では保育所における年長児の移動はほとんど無く、新しく入所する年齢は3歳児がもっとも多く、4歳児がそれに次いでいる。したがって本調査では3～4歳児を対象とせざるをえなかった。われわれの対象とした新入所児は、福祉事務所に申込み保育所入所を待機していたものである。しかし、入所時点で保育所入所資格を整えたものが含まれるのではないかという危惧があった。もしそうであれば、その子は入所前まで家庭で十分保育をうけていたことになり、保育に欠ける子と保育所保育をうけた子との厳密な比較にはならない。これに関しては、調査結果にみるように、新入所児のお

やつの与え方や就寝時間などの家庭生活から、新入所児が入所前まで保育に欠ける状態であったということが出来る。就寝時間は保育所に長くいる子も新入所児も平均夜9時半であり、3～4歳児が寝る時間にしてはあまりに遅い。実態を改めて検討するため、2～3の保育所の園長に問いあわせた。その結果、1～2部屋のせまい居住環境のものが多いので他の家族たちの就寝時間に左右されること、母親が勤めから帰って夕食の支度をして夕食、入浴させるので普通の家庭児より床につく時間は1～2時間おそくなるという報告をえた。保育所では昼寝時間を十分とっているが、保育所に入所できない子たちは昼寝や休息の時間をとらないのではないだろうか。このような一日一日の生活のちがいは、ここで直接検査や調査の結果にあらわされた能力や行動のちがいに幼児期の心身の成長に大きな影響を与えていることと思う。

質 問 紙

保育所	記入者 (保母)	調査月日	年	月	日
子ども氏名	男・女	生年月日	年	月	日
体重	kg	年齢	歳	月	
身長	cm	入所月日	年	月	日
<p>I これは保育所の中で、この子どもが、現在どの程度のことができるかを調べるものです。 次の各項目について、該当するところに○印をつけて下さい。はっきり分らない項目については、実際によく見て確かめてから記入して下さい。</p>					
(1) 食事の前や、手が汚れたとき、手を洗うこと	おく				
1 いわれなくても、すすんで手を洗う	2 ふつう				
2 時々あらう、時々忘れる	3 いわれないと衣類の整理をしない				
3 いわれないと洗わない	(6) 持物の整理				
(2) 食事のたべ方	1 自分の持物や道具は、いつもきまった場所におく				
1 おちついて、こぼさないで食べる	2 ふつう (ときに忘れる程度)				
2 ふつう	3 いわれないと、もとにもどさない。無頓着である				
3 おちつかず、よくこぼす	(7) 遊んだ後片づけ				
(3) 排泄、便所の使い方	1 いわれなくても、いつも片づける				
1 清潔に始末し、正しく使用する	2 いわれれば片づける				
2 ふつう	3 いわれないと片づけようとしな				
3 清潔に始末できず、正しく使用できない	(8) あいさつ (おはよう、さよなら、など)				
(4) 着衣、脱衣	1 いわれなくても自分からはっきりいう				
1 ひとりできちんと脱ぎ着ができる	2 いわれればいえる				
2 時間がかかる、きちんできない	3 いわれてもだままっている (非常に小さい声でいう)				
3 手伝ってもらわないとできない					
(5) 衣類の整理					
1 自分の衣類をきちんとたたみ、きまった場所に					

- (9) 順番に何かをするとき
- 1 進んで順番を守る
 - 2 ふつう
 - 3 順番を無視して勝手な行動をする
- (10) 手伝い（給食、伝言、整頓などのとき）
- 1 すすんで手伝う
 - 2 ときにすすんで手伝う
 - 3 何度もいわれないと手伝わない
- (11) 集合の合図のとき
- 1 すぐに理解して、よく注意する
 - 2 気がむかかないとすぐに行動しない
 - 3 合図に対して無頓着、無関心
- (12) 列をつくって歩くとき
- 1 列を乱さず規律をよく守る
 - 2 ふつう
 - 3 他の人の迷惑になることをし、集団活動を乱す
- (13) 先生の伝言、注意、約束など
- 1 一度でよくのみこめる
 - 2 ときにのみこめないときがある
 - 3 何度もくりかえさないとよくのみこめない
- (14) 遊びのときの道具
- 1 遊び道具を誰にでもかしてやる
 - 2 気がむかかないときにはかさない
 - 3 遊び道具を自分で持ったまま手放さない

II 次の項目は、保育所の中でみられる子どもの能力や性格についての調査です。日頃の行動を観察して○印をつけて下さい。

- (1) 動作や行動
- 1 キビキビしている
 - 2 ふつう
 - 3 のんびり、無気力である
- (2) 周囲に対する関心
- 1 何にでも意欲的である
 - 2 ふつう
 - 3 やる気がない、無関心である
- (3) 姿勢、外見
- 1 立ったり、歩いたり、坐ったりのとき姿勢がきちんとしている
 - 2 時によって、あるいは坐るときだけなどにくずれる
 - 3 身体をグニャグニャさせている、ドク足やすり足で歩く、姿勢がわるい
- (4) リズムあそび
- 1 上手にできる
 - 2 ふつう
 - 3 ぎこちない、スキップができない、やらない
- (5) 話し方
- 1 はっきり話せる
 - 2 ふつう
 - 3 聞きとりにくい、幼児音がひどい、ことばが出ないで手が出てしまう
- (6) 聞き方
- 1 人の話を注意してきける
 - 2 ふつう
 - 3 じっときいていられない、理解できない
- (7) 皆の前で話すこと
- 1 集団の中で自分の意見をいえる
 - 2 さわがしくて皆に聞こえなくても平気、先生にだけいう
 - 3 だまってしまう、ひどく小さな声でいう
- (8) 情緒
- 1 気分にもうがなくて安定している
 - 2 ふつう
 - 3 気分がかわりやすい、すぐ怒ったり、泣いたりする、理由なくメソメソする
- (9) 集団への参加
- 1 積極的、たのしんで活発に行動する
 - 2 ふつう
 - 3 引込思案でなかなか入れない、傍観しているだけ
- (10) グループあそび
- 1 グループに協力してあそぶ
 - 2 まねして平行あそびをする
 - 3 ひとりであそぶ、他を妨害する

III 次の事項は子どもの衣類や肌の清潔さに関する調査です、よく実際をみて該当するところに○印をつけて下さい。

- (1) 衣類の清潔度
- A 上衣について（洋服、一番上に着ているシャツ）
- a 汚れ方
 - 1 垢で非常に汚れている
 - 2 ふつう
 - 3 清潔である

- b 手入れ 3 とくに気をつけて手入れしてある
- 1 ひどくやぶれている、ボタンがとれている (2) 肌の清潔度
- 2 ふつう A 顔
- 3 とくに手入れが行きとどいている 1 朝、顔を洗ったり、歯みがきをせず汚れている
- B 下着について (一番下に着ている肌着) 2 ふつう
- a 汚れ方 3 とくに気をつけて清潔にしている
- 1 垢で非常に汚れている B 頭髪
- 2 ふつう 1 非常に汚れている
- 3 とくに清潔である 2 ふつう
- b 手入れ 3 とくに気をつけて手入れがしてある
- 1 破れている、ボタンがとれている C 爪
- 2 ふつう 1 爪がのびていて黒い
- 3 とくに手入れがしてある 2 ふつう
- C 靴下 3 とくに手入れがとどいている
- 1 ひどく汚れたり、破けている D 皮膚 (手・足など)
- 2 ふつう 1 かなり汚れていて久しく入浴した様子がみられない
- 3 清潔にしてある 2 ふつう
- D 靴 3 とくに気をつけて清潔にしている
- 1 ひどく破損している
- 2 ふつう

IV 次の項目について、母親によくたずね、また母親との話の中から判断して、該当するところに○印をつけ、必要な項目には記入して下さい。

(1) おこづかい

- A 子どもは1日にお金をいくらもらいますか _____円ぐらい
- B それを何に使いますか 買食・おもちゃ・食事・その他 ()
- C 子どもの使うお金の使い道を母親は知っているでしょうか
- 1 詳しく知っている 2 大体知っている 3 全く知らない

(2) 睡眠時間

- A 子どもは何時にねて、何時に起きますか
- 就床時間 _____時 _____分ごろ
- 起床時間 _____時 _____分ごろ
- B 母親は子どもの睡眠時間についてよく気をつけていますか
- 1 夜おそくならないように気をつけている
- 2 時に気をつける
- 3 全く考えていない、気をつけていない

(3) 事故

- A 昨年度 (昨年4月～今年3月) 中に大きな怪我をしたことがありますか
- ある なし

1 交通事故

- a _____月頃 怪我をした状況 (原因・場所など) 怪我の程度
- () ()
- b _____月頃
- () ()
- c _____月頃

2	その他の事故	(怪我をした状況)	(怪我の程度)
a	_____月頃	()	()
b	_____月頃	()	()
B	1 昨年までに大きな怪我をしたことがありますか						
1	交通事故		怪我をした状況			怪我の程度	
a	_____歳_____月頃	()	()
b	_____歳_____月頃	()	()
c	_____歳_____月頃	()	()
2	その他の事故						
a	_____歳_____月	()	()
b	_____歳_____月	()	()
c	_____歳_____月	()	()